

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年1月15日

公表: 令和6年3月25日

事業所名        こどもセンターひかりの子

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	1		人数が多いときは身動きとりづらいため、活動場所、環境設定を工夫していく
	2	職員の配置数は適切である	9	1		子どもの特性やクラスに合わせて、人員の数を調整していく
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	1	視覚的支援をしている	2階指導室では、窓からの日差しがまぶしく感じることがあるため、カーテンを見直す
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	0		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	0	毎日のミーティング、0月1回の検討会をし、内容を記録している	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	0		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	法人全体研修(年1回)、外部研修があれば案内している	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10	0		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	0	新版K式発達検査を取り入れたアセスメントを行っている	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	1		計画を確認する時間を確保していく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	プログラム内容は話し合いをして決めている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1	同じ活動を継続することで、わかって動けるようになるため繰り返ししているが、その時に応じて変える部分もある	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10	0		子どもの特性に合わせた活動を考えていく
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	送迎職員には記録を確認する時間を確保したり、要点をまとめて共有したりしている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	毎日記録をとり、振り返り、課題がある時には検討している	
	20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10	0	半年に1回評価を行い、見直したうえで次の計画を立てている	

公表: 令和6年3月25日

事業所名 こどもセンターひかりの子

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	児発管が担当者会議に参画し、議事録に残し、事業所内で共有している	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	2		
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当せず	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当せず	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	2	必要に応じて連絡をとったり、担当者会議を通して、情報共有や支援の方向性を話し合ったりしている	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	1	必要がある場合には、保護者の同意を得たうえで情報提供共有を行っている	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2		
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	10		
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	5	管理者が出席している	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	活動報告、活動記録、保護者面談等を通じて発達助教や発達課題について確認をしている	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	10	0	未就園児の保護者を対象にしたペアレントトレーニングを実施している		
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	契約時に行っている	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0	面談や評価を基に計画書の作成を行い、保護者の方による書面確認の後、同意を得ている	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	半年に1回のモニタリング面談、就園・就学前に面談の場を設けている。それ以外、相談の申し入れがあった場合に応じている	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	9		
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0		
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	1	年1回ホウジンな愛で解放を発行している。定期的にブログで活動内容等を発信している	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	10	0	入職時・退職時に誓約書を交わし、取扱いに注意している	
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0		

公表: 令和6年3月25日

事業所名 こどもセンターひかりの子

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	10		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	2		定期的にすべてのマニュアルを確認する
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0		年1回実施しているが当日欠席している方もいるため年2回実施できるように努めていきたい
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10	0	面談時にプロフィールに記入して確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	ミーティングで報告後、ヒヤリハットファイルに記入し、共有している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	虐待防止委員会の設置 年1回法人全体研修の実施	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10	0	虐待防止委員会の中で、身体拘束適正化委員会を設置し、基本方針を定めている	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。